

丹後震災100年記念事業

丹後震災

参加料
無料

遺構見学ツアー

丹後震災の遺構(断層)や復興建築をめぐる

断層(郷村断層等)や復興建築(丹後震災記念館、峰山小学校旧本館)を専門家の解説付き(ガイド)で巡る。

あわせて、2回目は、峰山高等学校で高校生による震災に関する講演会を行うとともに、防災用笛の製作・配付を行う。

お問い合わせ・申込先

丹後震災100年記念事業実行委員会
(京丹後市教育委員会文化財保存活用課)

TEL 0772-69-0640 FAX 0772-68-9061 E-mail bunkazaihogo@city.kyotango.lg.jp

※本ツアー参加には事前申込が必要です。申込は上記までご連絡ください。

HPの申込フォームによるお申込みもできます。こちらのQRコードからお申込みください。



1回目 断層から知る丹後震災

日時 令和8年10月17日(土)

午後1時～午後2時30分

場所 郷村断層(樋口地区・小池地区)・京丹後市立郷土資料館

ルート 樋口地区→小池地区→郷土資料館(集合場所:樋口地区)

時間 約1時間30分

参加者 小学生以上を対象 **定員20名**

詳細 郷村断層 2箇所で説明後、郷土資料館に寄り被災資料を見学する。

運営 参加者の移動は各自の自家用車とする。
(樋口終了後は、郷土資料館駐車場へ)

2回目 高校生が語る震災と復興のかたち

日時 令和8年11月1日(日)

午後1時～午後3時30分

場所 京都府立峰山高等学校、丹後震災記念館、峰山小学校旧本館

ルート 峰山高校・丹後震災記念館・峰山小学校旧本館を巡る
(集合場所:峰山高校)

時間 約2時間30分

参加者 小学生以上を対象 **定員80名**

詳細 峰山高校で高校生が震災に関する講演会を開催(30分程度)。その後、4つの班に分かれ、防災笛ネックレス製作、防災食体験、丹後震災記念館、峰山小学校旧本館を回る。最後は峰山高校に帰着して流れ解散。各場所で、高校生製作のスタンプラリーあり(高校、記念館、震災記念塔、峰小旧本館)。

※丹後震災記念館、峰山小学校旧本館は耐震性能不足により内部には立ち入れません。外周りの見学のみにになります。

※車は峰山高校に停めていただけます。ツアーは徒歩での移動になります。

※1回目・2回目ともに、動きやすい服装、靴で飲み物持参でご参加ください。

◎2回目～高校生が語る震災と復興のかたち～各班グループ分けと詳細

グループ	1 13:00～13:30	2 13:30～14:00	3 14:00～14:30	4 14:30～15:00	5 15:00～15:30	6 15:30
1班		峰山高校		復興建築		
グループ A	講演	笛ネックレス 製作	防災食体験	丹後震災 記念館	峰山小学校	峰山高校 (解散)
グループ B		防災食体験	笛ネックレス 製作	峰山小学校	丹後震災 記念館	
2班		復興建築		峰山高校		
グループ C		丹後震災 記念館	峰山小学校	笛ネックレス 製作	防災食体験	
グループ D		峰山小学校	丹後震災 記念館	防災食体験	笛ネックレス 製作	

防災笛ネックレス



色は選べます!



北丹後地震(丹後震災)

北丹後地震(丹後震災)は、1927(昭和2)年3月7日18時27分に丹後半島で発生した直下型地震です。地震の規模(マグニチュード)は7.3で、震度6相当の揺れがあり、夕食時に発生したことから火災による被害が大きく発生しました。死者は2,925名にのぼり、特に断層沿いに位置した地域に被害が集中し、峰山町では9割以上の建物が倒壊しました。

地震により、丹後半島を南北に走る「郷村断層」と、東西に走る「山田断層」の一部が地表に現れ、学術的に特に重要とされた樋口地区・小池地区・生野内地区は1929(昭和4)年12月17日に国の天然記念物に指定されました。

なお、丹後震災は日本において初めて「活断層」の用語が使われたことでも特筆されます。

現在、京丹後市では丹後震災発生時間に黙祷・記憶継承のためのサイレンを毎年流しています。また、丹後震災は全国統一防火運動のきっかけであり、震災から3年が経った1930(昭和5)年3月7日に大日本消防協会(現:日本消防協会)は、第1回の防火運動を近畿地方で実施しています。



丹後震災記念館

丹後震災記念館は、「薬師ヶ丘桜の森公園」と呼ばれる峰山町室の高台に、京都府が1929(昭和4)年12月18日に建築した建物です。昭和初期には珍しい鉄筋コンクリート造で、京都府庁旧本館の設計にも携わった京都府技師一井九平による設計であることなどが評価され、2005(平成17)年3月18日に京都府指定文化財になっています。



峰山小学校旧本館

峰山小学校旧本館は、丹後震災記念館と同じ一井九平による設計で、1929(昭和4)年11月3日に竣工しています。こちらも当時珍しい鉄筋コンクリート造でつくられています。

震災で、峰山尋常高等小学校であった校舎のうち、奉安殿を残し木造校舎が全焼したため、鉄筋コンクリート造の本館と木造校舎を新しく建設されました。